

風水害・土砂災害①

河川に接する低い土地や地盤がゆるく不安定な造成地は、水害による危険性が高い場所です。次の点に注意し、風水害に備えましょう。

風水害に備える

① 天気予報や気象情報に注意

台風や豪雨はある程度の時期や規模などを予測できます。普段から気象情報に十分注意して、風や雨に対する対策を立てることが大切です。



② 家の内外を点検整備

トタンがめくれている、アンテナが不安定になっていると竜巻や台風時の被害の元になります。日頃の点検を忘れずに！



③ 避難場所・避難経路を確認する

防災マップに示されたあなたの近くの避難場所やその道順を確認しておきましょう。目印になるものをおぼえておくことが便利です。



④ 非常備蓄品・持ち出し品を準備する

いざという時のために、非常備蓄品や持ち出し品を用意しておきましょう。裏表紙の「非常持ち出し品・チェックリスト」を参考に、応用代用を考えながら、家族で準備しましょう。



洪水に注意!!

河川はん濫の危険レベル



国土交通省
川の防災情報
<https://www.river.go.jp/>
全国のリアルタイム雨量・水位の情報を提供。水防警報、洪水予報やダム放流通知。
携帯版 <http://i.river.go.jp/>

風雨による危険度のチェックポイント

1時間雨量による雨と被害の目安

| やや強い雨 (10~20mm) | 強い雨 (20~30mm) | 激しい雨 (30~50mm) | 非常に激しい雨 (50~80mm) | 猛烈な雨 (80mm以上) |
|--|--|--|---|--|
| <p>ザーザーと降る雨。地面いちめんに水たまりができます。長く続く場合は注意が必要です。</p> | <p>どしゃ降り。側溝や下水があふれ、小川のはん濫、崖崩れの心配もあります。</p> | <p>バケツをひっくり返したような激しい雨。道路が川のようになり、規制も行われます。</p> | <p>滝のように降り、地下に雨水が流れ込む場合や土石流も発生しやすくなります。</p> | <p>息苦しくなるような圧迫感があり、雨による大規模災害が発生するおそれがあります。</p> |

集中豪雨に注意!!

集中豪雨とは短時間に集中して狭い地域に多量の雨が降る事で「ゲリラ豪雨」とも言われています。大気不安定な状態が続いている時や台風が近づいている時、上陸した時などに発生します。台風などと異なり予測が困難であり、突発的に多量の雨が降ることから、河川のはん濫や土砂災害などの被害が起きやすいので、気象情報に十分注意しましょう。

風と被害の目安 ※風速は10分間の平均風速です。最大瞬間風速は平均風速の約1.5倍~3倍以上になることがあります。

| やや強い風 (風速10~15m/s) | 強い風 (風速15~20m/s) | 非常に強い風 (風速20~25m/s) | 猛烈な風 (風速25~30m/s) |
|------------------------------|-------------------------------------|---|--|
| 風に向かって歩けなくなり、樹木全体や電線が揺れ始めます。 | 風に向かって歩けず、転倒する人も出ます。看板やトタン板が外れ始めます。 | 鋼製シャッターの破損、ビニールハウスが壊れるなどや風で飛ばされた物で窓ガラスが割れるおそれがあります。 | ブロック塀が壊れたり、取り付けの不完全な外装材が飛ぶ危険があります。屋根が飛ばされたり、木造住宅の全壊なども発生するようになります。 |

| 水防団待機水位 | はん濫注意水位 | 避難判断水位 | はん濫危険水位 |
|---|---|----------------------------|--|
| 大雨などにより、この水位を越えると水防関係機関が水防活動の準備に入ります。 | 洪水注意報の基準となり、災害の恐れがある水位です。この水位を越えると水防関係機関が活動します。 | 避難準備・高齢者等避難開始の発令基準となる水位です。 | 避難勧告等の発令基準となり、家屋浸水等の被害を生じるはん濫の恐れがある水位です。 |
| テレビ、ラジオなどの最新の気象・洪水情報に注意し、警戒を強めてください。また、避難に時間を要する人(高齢者、障がいのある方、乳幼児等)とその支援者は避難の準備を整えましょう。 | 避難に時間を要する人とその支援者は避難を開始し、その他の人は避難の準備を整えましょう。避難の際は危険な場所は通らないようにしましょう。 | | 速やかに避難所へ避難しましょう。外出することでかえって命に危険が及ぶような状況では、近くの安全な場所や、自宅内のより安全な場所に避難しましょう。 |

雷に注意!!

雷は突然襲ってくるという災害ではありません。「まだ大丈夫」といった誤った自己判断が原因で被害にあうことが多いようです。「ゴロゴロ」と鳴ったら要注意。稲光がするようなら、すぐに避難しましょう。

雷注意報 雷注意報は積乱雲によってもたらされる落雷や降ひょう、竜巻や突風などによる被害の恐れがある場合に発表されます。

| 雷害 | ひょう害 | 突風 |
|---|---|---|
| 人が落雷の直撃を受けるとほとんどが感電死となり、落雷によって停電事故となる場合もあります。 | 直径5mm以上の氷の固まりを「ひょう」と呼んでおり、農作物の損傷やビニールハウス・窓ガラスの破損などの被害があります。 | 突風は上空から降りてきた空気が地面にぶつかって周辺に水平に広がる発散性の強風です。航空機の離着陸に影響を与えます。 |

安全な場所への避難

- 外にいるときは、家の中に(鉄筋、鉄骨の建物は安全性が高い)
- 外出中の場合は、車の中に避難します。
- 簡易な建物や樹木からは2~4m以上離れるようにします。
- 雷が落ちた場合、雷が飛び移る「側撃」の危険性があります。

外出先での注意

- 広い場所にいるときは姿勢を低くしてしゃがみます。(グラウンドゴルフ場など)
- 長いもの(釣竿・傘・バットなど)は頭より高くしないようにする。
- 山では頂上、岩場、尾根が最も危険です。窪地に身をよせ雷が通り過ぎるのを待ちます。
- 落雷の危険性があるので、大きな木には近づかないようにします。

家の中での注意

- 強い雷の時は家電製品が雷で故障することがあるので電灯線、電話線は雷が収まるまで切り離しておきます。パソコンやモデム、ルーターといった電子機器も雷の影響を受けやすいので、雷がおさまるまで電話線等を切り離します。